

# 阪高のために 歴史的な京橋船溜まり 埋め立てやめよ

9月2日に神戸市会本会議がひらかれました。日本共産党神戸市会議員団の松本のり子議員が議案質疑に登壇し、波止場町・新港町の船溜まりを埋め立てる議案に対して質疑しました。

## 質疑項目 1.京橋船溜まりの埋め立てについて

本議案は波止場町1番地の京橋船溜まりを約50億円かけて3.3haを埋め立てるものです。2011年の「港都 神戸」グランドデザイン策定当初は、京橋の船溜まりを埋め立てる計画はありませんでしたが、阪神高速道路公団株式会社(以下「阪高」)が京橋付近の橋脚の大規模修繕を決め、2022年8月に、神戸市港湾局と建設局と阪高の3者で確認書を結びました。確認書では、費用負担など詳しいことが示されないまま、「京橋船溜まりエリア改良」事業を連携して進める事が確認されました。その後11月に船溜ま

りは埋め立てることを前提にすることが阪高と神戸市とで確認され、12月に神戸港中期計画の中で、「船溜まり活用」から「埋め立て」へと変わりました。松本議員は、50億円もの市費を投じる埋め立て計画は、阪高への橋脚整備の便宜をはかることが第一で、京橋地区をウォーターフロントのエントランスにするという計画は二の次であることが、この経過から見ても明らかだと指摘し、これまで神戸港が発展してきた歴史ある船溜まりを埋め立てる計画は見直すべきと質しました。

## 答弁ダイジェスト

**松本議員:** 2回に渡って確認書を交わしているが、工事費についてはどのような話し合いがされたのか。

**今西副市長:** 埋め立て部分は29億円だが、阪高には応分の負担をいただき、さらに埋め立てた土地の売却や賃貸で十分賄える。

**松本議員:** 2回の確認書に金額が載っていないのは問題

があるのではないかと。議事録の請求をしたが議事録はないと言われた。議事録もないのに局長はどうやって決裁したのか。

**今西副市長:** 議事録は存在する。間違いだったので訂正する。

**松本議員:** 何度も会議を開いていると聞いているが、副市長は会議の度に議事録を見ているのか。



## 松本のり子議員が 議案質疑

**今西副市長:** (確認書を交わした) 2通の議事録は確認しているが、それ以外は知らない。

**松本議員:** 2011年に専門家と議論した際は、船溜まりを残したいという思いがあったのではないかと。その思いを踏みにじらないでほしい。

**今西副市長:** 都市型として唯一櫛形の突堤を残している。新たに海軍操練所も残すことになっている。かねてからの東西の回遊性の課題を解決するために埋め立てる。

**松本議員:** 神戸港の発展に大きく貢献してきたのは、過酷な労働をしていた水上生活者の人達だ。歴史を忘れず守っていかなければいけないものだ。

**今西副市長:** 神戸港の歴史は神戸の発展そのものだから大切にしなければいけないが、時代の変化も激しくなり、ウォータ

ーフロントは都市型の魅力的な憩いの場として整備することが望まれている。

**松本議員:** かつては中突堤とメリケン波止場の間に舳(はしけ)溜まりがあり、たくさんの船が係留されていたが、全て埋め立ててメリケンパークになってしまった。今度船溜まりまでも埋め立ててしまえばどのように神戸港が発展してきたかがわからない。「神戸は港でもち、港は舳(はしけ)でもつ」と言われてきた。水上生活者の人達が神戸港を支えてきたということに胸に留め、埋め立て計画は見直すべきだ。



ぜひ傍聴にお越しく下さい

## 前田あきら議員が総括質疑

日時 9月26日(金) 13時40分頃から 場所 市議会本会議場にて

\*委員会の進行状況によって時間が大きく前後する可能性がありますのでご注意ください。

インターネットの  
ご視聴は  
こちらから



# 自民党政治の二つのゆがみと久元市政12年をまとめた 「くらしから見る、考える 神戸市の政治 2025年版」

を作成しました。ぜひ、ご活用ください

昨年の総選挙では、自民党政治のもとでの30年という長期に渡る経済停滞と衰退、空前の大軍拡など憲法を無視した「戦争国家」づくりに、国民の怒りが爆発しました。

自公過半数割れという総選挙の結果、「企業献金と一体の財界中心政治」、「日米同盟絶対の政治」という「二つのゆがみ」をかかえる自民党政治に代わる新しい政治の模索・探求が国民の中ではじまっており、地方政治でもこれまでの古い政治からの転換が求められています。

しかし、神戸市政は、大型公共事業で大企業には大盤振る舞いの「放漫財政」を続け、物価や人件費の高騰で建設費が跳ね上がっても計画を変えることなく都心・三宮やウォーターフロントの再開発などに市税をつぎ込んでいます。

その一方で、水道料金やバス運賃の値上げや国民健康保険料の独自減免の廃止、さらにこども医療費や学校給食の無償化、中小企業への直接支援には背を向け、市民には「緊縮財政」を押し付けています。

市長は、「憲法改悪」をすすめる自公政権の後押しで就任。就任後は憲法集会への後援の取り消しや、自衛隊員募集のための個人情報電子データの無断提供などをすすめ、非核証明書を提出しない米艦船の入港を許可するなど、アメリカいいなりの「戦争する国づくり」に能動的に付き従っています。

2025年で阪神・淡路大震災から30年を迎えました。神戸市が住民の反対を押し切って、空港建設や新長田再開発などをすすめる一方、住民サービスを切り捨て、くらしの再建の足を引っ張ってきた「教訓」を全く活かさず、市長はさらにトップダウンを強めています。

いま神戸市政に求められているのは、古い自民党政治への追従ではなく防波堤となって、物価高騰から市民のくらしと営業を守り、賃上げや市民負担の軽減など「住民福祉の増進」に力



を尽くすことです。

日本共産党神戸市会議員団は、住民不在の冷たい久元市政から、市民にあたたかい神戸市政に転換をめざし、全力で頑張る決意です。

このパンフレットは、無料でお配りしています。日本共産党神戸市会議員団にお問い合わせください。

## 「みなさんの願い実現へ全力」

日本共産党神戸市会議員団は、6月30日に動物サポーターのみなさんと、1万6365人分の「王子動物園の専門員・飼育員を正規職員にすることを求める要請署名」を、8月27日には全日本年金者組合のみなさんとともに、1645人分の「加齢性難聴の補聴器購入助成を求める署名」を神戸市に提出しました。

「王子動物園の専門員・飼育員を正規職員にすることを求める要請署名」を提出した際、神戸市は、「動物園の3年後（のリニューアル）に合わせて検討している」と回答しました。今年8月に正規の専門員を10名募集することが決まり、みなさんの願い実現へ大きく前進しました。すべての専門員・飼育員が正規職員となるようさらに運動を強めて頑張ります。

一方で、加齢性難聴の補聴器購入助成については、「明確なエビデンスはまだ出ていない。国に対して補聴器の購入にかかる全国一律の公的補助制度を創設するよう要望している」と冷たい回答に終始しました。

日本共産党神戸市会議員団は、引き続きみなさんの願い実現へ力を尽くします。

→王子動物園の専門員・飼育員を正規職員にすることを求める要請署名を提出する松本議員（右から2番目）と西議員（右から3番目）



←加齢性難聴の補聴器購入助成を求める署名を提出する前田議員（右から3番目）と朝倉議員（左から4番目）と味川議員（左奥）

